



トルキア行進曲の 川



b-svaha

気がつくと、わたしは、
トルキア行進曲の川に来ていた。

その川の透き通った水には、
魚はほとんど棲んでなくて、
トルキア行進曲の音符たちだけが、
泳ぎ回るように流れていた。

川の上に掛かる橋の欄干に座り、
ぼんやり川面を見つめていると、
川下から大きな虹色のアメンボウが、
人影を乗せてスイスイと上ってきた。

アメンボウは、橋の下まで来ると、
そこで円い波の錨を張って、
動かなくなった。

その様子を見ていると、
水中のあちこちから、
トルキア行進曲が、
ゆっくりと流れてくるのが聞こえた。

ある音は、
深いところでぼんやりと淡くひかり、
ある音は、
浅いところでアメジスト色にきらきらと鳴り、
ある音は、
透き通ったレモンのおたまじゃくしのよう、
水中を泳ぎまわっていた。

その人影は、まるで真剣に、
その音符たちを、
白く透明なひしゃくですくい始めた。

ひとつ、ふたつと、
ひしゃくは長さを変え、
あちこちの音符たちに、吸い付くように飛びついて、
すぐに手元のかごの中に、音を集めていった。

曲の半分くらい拾い集めたところで、
人影は叫び声を上げた。

「くう〜っ！！
また一匹逃がしてしまったぜ！！

おれは、もう300年もここでこの曲を拾っているのに、
まだ、一度も全部集められやしないなんて…。

いい加減に天を恨みたくもなるさ！」

わたしは、不思議に思って、
橋の上からその人に尋ねた。

「どうしてこの曲の音を集めているのですか？」

顔のない人影は、
わたしを見上げて、
怒ったようにこう答えた。

「おれはトルキア人が大嫌いなんだ！」

あいつらによって、
家族も親戚も、それはひどい目にあったんだ。

だから、当たり前ってことさ。

おれがこの音たちを全部拾い集めた時、
この川は消え、
この星から『トルキア行進曲』が消えるのさ。

この忌まわしい音楽も、
一度も生まれなかったことになるのさ！」

人影はそう答えると、
虹色なアメンボウをけしかけるようにして、
川上に滑り出した。

川には、また、
トルキア行進曲のメロディーが、
ゆっくりとした光のオルゴールのように、
きらきら流れていた。